

平成 24 年度第 3 回社会教育委員会議 会議録

【開催日時】 平成 25 年 2 月 28 日（木） 午後 1 時 15 分から 2 時 30 分まで

【開催場所】 教育委員会 大会議室

【出席者】

（委員）

浅間委員、飯牟礼委員、岡本委員、近藤委員、佐野委員、柴田委員、 田中委員、中尾委員、藤田委員、星野委員、森委員、山口委員、弓場委員、渡辺委員 （14 人） 2 名欠席

（職員）

高橋生涯学習部長、増田生涯学習部次長（兼図書館長）、鷺見生涯学習課長、木村鳥の博物館長、今井生涯学習課主幹（兼公民館長）

（事務局）

小川主査、湯下主事

【傍聴人】 1 人

【会議次第】

- 1 開会のことば
- 2 委員長挨拶（渡辺委員長）
- 3 生涯学習部長挨拶（高橋生涯学習部長）
- 4 議事（議長：渡辺委員長）
 - (1) 平成 24 年度（後期）社会教育事業の実施状況について
 - (2) 平成 25 年度社会教育事業予算について
 - (3) 社会教育施設利用活性化検討部会経過について
 - (4) その他 「我孫子市の図書館」について
- 5 報告（事務局）

交通安全推進協議会委員の推薦について
- 6 閉会のことば

【配布資料】

- 資料 1 平成 24 年度社会教育事業の実施状況（9 月下旬～1 月上旬）
- 資料 2 平成 25 年度社会教育事業予算概要
- 資料 3 第 4 回社会教育施設利用活性化検討部会会議（メモ）
- 資料 4 県内公立図書館サービス指標
- 資料 5 我孫子市交通安全対策協議会委員推薦依頼書（市民安全課からの文書写し）

【議事】

(1) 平成 24 年度（後期）社会教育事業の実施状況について

資料 1「平成 24 年度社会教育事業の実施状況（9 月下旬～1 月上旬）」について各所管課長から補足説明。

- 生涯学習課長：生涯学習課企画調整担当の施策「社会教育施設の整備」実施事業「新たな文化施設の検討」については、12 月 3 日に関係する 10 課により第 2 回文化施設整備庁内検討委員会を開催した。会議では候補地選定における基本的な考え方の確認及び既に候補地として挙がっている 3 か所以外の候補地の洗い出しについて検討した。候補地選定の基本的な考え方として市諸計画との整合性、交通アクセス、景観、周辺環境、地盤状況、地理的条件、まちづくりの視点で賑わいを創出できるエリアかどうかを評価することとした。3 か所以外の候補地の要件として 1 万㎡以上の建設用地を確保できるか、配水困難地でないか、地盤が軟弱でないかを前提として未利用地を洗い出すことを確認した。

施策「成人式」については、対象者 1,154 人、出席率 74.7%であった。また、成人式企画運営会議の提案により東日本大震災復興支援を目的とした募金箱を会場に設置し、7,396 円の募金にご協力いただいた。出席率は 74.7%であり、東葛飾地域 6 市のうち最も高い出席率であった。なお、他市の出席率は、松戸市 55.6%、柏市 58.7%、野田市 69.9%、流山市 72.2%、鎌ヶ谷市 68.6%であった。

- 公民館長：生涯学習課公民館担当の施策「公民館講座・学級」として 8 講座 5 学級を実施し、1 月末をもって全て終了した。

実施事業「家庭教育学級」「のびのび親子学級」については、来年度へ向けての PR、湖北及び布佐方面へ向けての PR を目的として 2 月にプチ家庭教育学級及びプチのびのび親子学級を 3 回シリーズで実施した。プチ家庭教育学級は湖北地区公民館、プチのびのび親子学級は布佐小学校地域交流教室で実施した。学級生からは、子育てについて短い期間ではあったが充実していたと好評であり、今後も続けていきたいと考えている。

実施事業「アビコなんでも学び隊」については、小・中学生を対象に定員以上の応募があったので抽選により学級生を決めさせていただいた。

施策「公民館運営」実施事業「湖北地区公民館指定管理者」については、3 月末をもって現指定管理者あゆみの郷・都市建設公社が解散となり、新しい指定管理者として 10 月 11 日に指定管理者選考委員会を実施してアクティオ㈱を選考し、12 月議会で承認された。現在は、4 月からの業務開始へ向けて公民館担当、あゆみの郷・都市建設公社及びアクティオ㈱で事務引継ぎ業務を行っている。

- 生涯学習課長：文化・スポーツ課については、本日欠席のため補足説明は割愛させていただく。この後の質疑応答でお答えできることは私がお答えし、分からないことは、後日担当からご説明させていただく。

- 図書館長：木曜日 18 時閉館については、事業仕分けによる運営の見直しにより昨年 6 月から毎週木曜日 18 時から 20 時の 2 時間短縮を試行し、半年間の影響を分析した。入館

者数が減少して市民サービスが低下することが分かったので、平成 25 年度から木曜日 18 時閉館を止め、通常に戻すこととした。

図書館の施策「資料の収集」実施事業「資料の収集」については、四半期ごとに 25% ずつ予算を執行している。年々予算が減少しているので、できるだけ良い本の収集に努めている。

施策「読書普及事業」実施事業「文字活字文化の日関連事業」としては、平成 22 年に白樺創刊 100 周年事業として柳兼子についての講演会を開催して評価が高かったため、昨年改めて映画「兼子」上映会を開催し、33 人の参加者があった。今後も、図書の貸し出しだけでなく、白樺文学館及び杉村楚人冠記念館とともに読書普及事業の拡大を考えていきたい。

- 鳥の博物館長：鳥の博物館の施策「教育普及活動」実施事業「企画展」事業内容「日本の鳥～鳥博コレクション展～」については、標本剥製 320 点を展示し、多くの来場者があり好評であった。事業内容「トキふたたび舞う」についてはタイムリーな内容であったため、約 1 か月期間を延長して開催した。

実施事業「他博物館との連携」事業内容「鳥クイズ&スタンプラリー」について総参加者数 38,456 人は、台紙の捌けた数をカウントしたものである。国立科学博物館が中心となって PR していただいたので、都内からもかなりの人が来場したと思われる。前回の会議では、市外への PR についてご質問いただいたが、これにより市外、県外へ広く PR できたと思われる。また、近隣市の幼稚園、小学校、老人福祉施設 366 か所への案内状を送付し、PR を行った。

実施事業「ジャパンバードフェスティバル」で開催した事業内容「ゲストトーク」については、台湾からもゲストを迎え、79 人の参加者があって好評であった。

- 渡辺委員長：成人式について松戸市の出席率は 55.6%との説明があり、松戸市は 19 歳を対象に成人式を実施していると記憶しているが、それが原因で出席率が低いのか。

- 生涯学習課長：以前の事は分からないが、現在は 20 歳を対象としていると聞いている。

- 渡辺委員長：地域コミュニティ活性化委員会から長寿大学において地域リーダー養成講座を設けられないかという案が出ているので、話があったときは、検討していただきたい。

- 公民館長：分かりました。

- 渡辺委員長：ジャパンバードフェスティバルについて今回は、カービング展示の場所が水の館からアビスタへ変更となったが、それによる来場者数の変動について分析しているか。

- 鳥の博物館長：カービング展示を水の館の広い展示スペースからアビスタへ変更したことにより、規模が小さくなったという声があったかもしれないが、総来場者数約 38,000 人は、ここ 5,6 年では 2 番目に多い数であり、ジャパンバードフェスティバル全体としては大好評であったと認識している。

- 弓場委員：施策「子どもの読書環境向上への取り組み」実施事業「子どもたちへの読書普及」として「読み聞かせ」が記載されているが、他にも図書館事業として小学生向け

の「我孫子を調べるための図書案内」や幼児向けの「絵本紹介パンフレットの作成」なども実施しているので、それ等についても資料に記載するのが良いと思う。

●図書館長：今後は記載することとする。

○弓場委員：「子どもたちへの読書普及」事業における普及の手順も具体的に示してほしい。

(2) 平成 25 年度社会教育事業予算について

資料 2「平成 25 年度社会教育事業予算概要」について各所管課長から補足説明。

●生涯学習課長：まず、資料に記載してある「経常」及び「政策」について説明したい。

「経常」は通常の事務事業、「政策」は新規又は通常の事業を拡大、付加したものである。

事業名「成人式」については、開催日を「成人の日」から前日の日曜日へ変更した方がより多くの新成人が遠方からも出席し易い環境となるのではないかという意見がある。平成 26 年成人式企画運営会議において変更の可能性についても検討したいと考えているが、変更する場合でも実際に可能なのは、平成 27 年成人式以降である。

●公民館長：事業名「生涯学習センター総合管理運営」については、公民館、図書館の維持管理業務及びインフォメーションセンター業務として 50,306,000 円を計上した。プロポーザルによる 3 年間の委託契約であり、平成 25 年度が最終年度となるため、平成 26 年度以降の契約について募集することとなる。

事業名「湖北地区公民館」については、平成 25 年度から 3 年間のアクティオ(株)による指定管理となる。事業の概要「事務室系空調機更新工事」については、湖北地区公民館が竣工後 20 年を経過しており、財政課と折衝しながら老朽化した設備を更新している。事業の概要「ホール音響機器リース」については、経年劣化で音の悪くなったアンプやミキサー等について更新するものである。

●図書館長：事業名「資料の収集」については、平成 24 年度と同程度の図書購入費を計上できた。

新規事業として事業名「デイジー録音図書作成事業」については、視覚障害者のために本を CD 化して貸し出す事業を開始する。録音 CD は、我孫子朗読の会の無償ボランティアによる協力で作成する。我孫子朗読の会から録音 CD の貸し出しを受けている視覚障害者が 60 人近くおり、そのサービスを拡大するために政策費として予算を計上した。

●鳥の博物館長：事業名「LED 工事」については、平成 24 年度に実施した 190 個の照明交換に引き続き行うものであり、新たに商品化された LED スポットライト 50 個、多目的ホール及び友の会ルームの照明 102 個を交換するものである。

事業名「除湿機設置工事」については、毎年度 1 機ずつ交換して 6 機目の最終工事となる。

事業名「市民スタッフの活用」については、展示ガイドやイベントを行う市民スタッフであり、特に館内展示については 12 人のスタッフのガイドが好評である。

事業名「冷蔵庫購入」については、提供された鳥を保存して標本とするためのものである。

事業名「鳥博オリジナルポロシャツ販売」については、700着を製作、販売するものである。

- 生涯学習課長：文化・スポーツ課の事業名「旧井上家住宅の保存と活用」については、平成24年度中に土地の売買契約を締結する。現在、担当では、その保有と活用についての方針を作成しており、平成25年度には社会教育委員会議へ提示できる。また、部分公開として見学も可能となる。

以上、資料に掲載した予算査定額は、3月議会で承認後、決定額となるものである。

- 弓場委員：今回の資料は、昨年同時期の会議で提示された資料と比べて非常に良くなっている。変更したことをきちんと説明すべきである。

- 生涯学習課長：今回の資料で改善したのは、説明責任を果たすため「目標又は期待される成果」を掲載した点である。

- 弓場委員：昨年度の資料は、「生涯学習部予算額一覧表」というものであり、予算科目だけが記載され、事業名が記載されていなかった。今回の資料は事業名ごとに概要、目標、予算額などが記載されており、平成24年度事業実施状況との比較もできるので非常に分かり易くなった。

- 柴田委員：事業名「杉村楚人冠邸の保存と活用」に「展示・講演会を実施して歴史的な意義を広く知らせる。」と記載されているが、松戸市の戸定邸では、文化・芸術振興という目的のためにも活用されている。そのようなことは、我孫子市でも考えているか。

- 生涯学習課長：杉村楚人冠邸、旧村川別荘、白樺文学館では、歴史的な意義を知らせる目的以外に生涯学習という視点も付加して運用すべきと考えている。例えば旧村川別荘においては、古き良き文化に触れてもらおうという意味で「ひなのまつり」を現在開催しており、生涯学習の視点で各施設が事業展開しているところである。

- 弓場委員：図書館の資料では件数の増加を目標としているが、本来の目標は利用者の満足度の向上にあるのではないか。来館者が増えても常に満席で座れないくらい混んでいる現状においては、件数の増加だけを指標とすることは妥当ではないと思われる。企業で言うところの「カスタマー・サティスファクション」いわゆる「CS」向上が本来の目的であるが、図書館ではそれを把握できていないのではないか。その一例を示すと図書館のCDは、5年くらい更新されていない。また、CD自体も傷むので、CD利用者の満足度は低く、利用率も下がっていると思われる。図書館は、利用者のニーズを把握する必要がある。

- 図書館長：来館者数と利用者数は別な指標であり、来館しても借りる物がなく、新聞や雑誌を少し見て帰るだけでは、利用者とならない。利用者が満足することが、図書館の目標であり、CSについては、図書館でも考えていきたい。ただし、CDを図書館に置く場合、販売価格の倍の経費が掛かってしまい、CDを予算化するまでの余裕がないのが現状である

- 星野委員：昨年10月に「社会教育と社会貢献」というテーマで社会教育振興大会が開催され、「社会教育」は「社会貢献」であるという新しいキーワードが打ち出された。特に団塊世代が地域へ戻り、元気な内に少しでも社会貢献していただく施策は、難しいが重

要な事である。平成 25 年度事業計画では、「長寿大学」や「熟年備学」等にその点が盛り込まれる予定があるか。

●公民館長：「長寿大学」4 年制のカリキュラムの中には、地域に根差し、地域を育む人づくり、地域にどれだけ貢献できるかという内容の講座も組み込んでいる。それに特化している状態ではないが、現役を終えられた方々が入られているのが長寿大学であり、そこには地元の老人会に入られている方々も大勢いらっしゃる。今年の 1 年生のお話を伺うと、地域の活動が活発で忙しい方も沢山いるようである。2～4 年生についても同様であると思われる。学習活動の中に地域貢献についてのカリキュラムを組み込むことは、非常に重要なことであり、今後も社会教育指導員と相談しながら作っていきたいと考えている。

○佐野委員：私が最近気になることの一つとしては、子どもの読書離れがある。親が忙しくて子どもに絵本を読んであげられない場合があり、また、大人になると段々本を読まなくなる場合もある。小学校で読み聞かせやお話会を実施しているのは大変結構なことである。今後は、幼稚園や保育園とも連携して読書好きの子どもを育てるよう啓発していただきたい。

もう一つ気になることは、団塊世代の退職者は自分の趣味に専念する人が多く、地域へ貢献する人が少ない。団塊世代の地域貢献への啓発もお願いしたい。

○渡辺委員長：16 ミリ映写機操作講習会は、修了証の交付を受けるのに 2 日間の受講が必要と記憶しているが、毎年何人くらいの受講者数があるか。近年、近隣センターやホールでの上映会においては、DVD や液晶プロジェクターが主流であり、16 ミリフィルムの上映は実施されていないと思われるが、いかがか。

●生涯学習課長：市視聴覚ライブラリーでは、県の規則に沿って 16 ミリ映写機操作講習会を実施し、修了証交付者へ映写機及びフィルムを貸し出している。機器の主流が DVD となっている中で、16 ミリ映写機及びフィルムの貸し出しは減少している。主な利用団体は保育園や学童保育室であり、夏休み等の利用が多い。平成 24 年度の受講者数は、24 人であった。1 回の講習に要する時間は、半日である。なお、視聴覚ライブラリーでは 300 本以上のフィルムを所有しており、できるだけ多くの市民に使っていただけるよう啓発している。

(3) 社会教育施設利用活性化検討部会経過について

資料 3 「第 4 回社会教育施設利用活性化検討部会会議（メモ）」について社会教育施設利用活性化検討部会副部会長の近藤委員から補足説明。

○近藤委員：2 月 22 日に第 5 回社会教育施設利用活性化検討部会を開催し、次の 3 点について次回部会で提言をまとめ、社会教育委員会へ提出したいと考えている。

① 体育施設の利用関係団体の情報の共有化について

東日本大震災以降、除染や耐震工事により学校体育施設を利用できない状況があったため、各学校施設の予約状況を公開し、利用できない場合は他の学校で利用できるよう、市で団体間のコーディネートを行う必要がある。

②文化・学習活動施設（近隣センター）について

近隣センターが利用されていない時間帯があり、空き状況をまちづくり協議会が管理するホームページで公開し、予約しやすくしていただきたい。

③委託事業について

新春マラソンにおいて受託業者が契約以上のエントリーを受けた場合、増えた分の収益をスポーツ振興に有効利用できるよう柔軟性のある契約へ見直しされたい。

○弓場委員：近隣センター利用者からの意見を吸い上げる仕組みはあるか。

●生涯学習課長：所管課でないのではっきりとは答えられないが、まちづくり協議会が地域密着の運営管理をしているので、利用者の声は聞いていると思われる。

○弓場委員：利用活性化のためのアンケート調査を実施する予定はあるか。

○近藤委員：予定はない。各まちづくり協議会で近隣センターのシステムが違うので、それを一本化するのには困難である。

○渡辺委員長：平成 26 年度から県の予約システムを導入する予定である。しかし、各まちづくり協議会が近隣センター管理の取り扱いを一本化するか否かは分からないので、社会教育委員会議において提言したい。

(4) その他 「我孫子市の図書館」について

生涯学習課長から議題提案についての経緯を説明し、資料 4「県内公立図書館サービス指標」について図書館長から補足説明。

●生涯学習課長：平成 23 年度の社会教育委員会議で部会設置を検討する際、弓場委員から図書館関係の部会設置の妥当性・可能性について打診があり、図書館と協議した。協議の結果、部会設置ではなく、図書館の現状に対する理解を委員に深めてもらう機会を設けることとし、平成 24 年秋に刊行した「我孫子市の図書館」を基に図書館サービス指標の近隣市との比較や経年変化を分析した結果を資料 4 として配布し、説明させていただくこととしたものである。

●図書館長：平成 14 年に現在の図書館本館がオープンして以来、近隣市と比較して突出して入館者数及び利用者数が多く、都内の優良図書館並みである。単純計算すると我孫子市の図書館本館だけで流山市全図書館と同じくらいの入館者数である。平成 23 年度の図書館本館利用者数は約 23 万人であり、我孫子市民の読書熱の高さを現している。県内 38 市町村の公立図書館サービス指標（平成 22・23 年度）では、県平均を下回る予算額でありながら、登録率、1 人あたりの貸出冊数及び蔵書冊数等は、全て県平均を上回っている。平成 20 年度からの経年変化を見ると入館者数、貸出数は減少傾向にある。特に東日本大震災により平成 23 年 3 月及び 4 月を閉館とし、平成 22 年度に貸出数が約 10 万冊減少したまま回復していない現状である。全国的にも図書館の入館者数、貸出数は減少しており、電子図書の普及やゲームの影響により子どもたちが本を読まなくなったことが原因として考えられる。今後の課題としては、図書貸し出し以外のカスタマーサービスの展開が重要であると考えている。

○渡辺委員長：担当課の努力と市民の図書への関心の深さによって高い利用率となっているのは分かるが、予算が県平均並みとなるよう努力していただきたい。

以上で議事を全て終了する。

【報告】

(1) 交通安全推進協議会委員の推薦について

市民安全課から交通安全推進協議会委員の推薦依頼があり、柴田委員及び藤田委員を推薦したことを報告した。

(2) 第2回社会教育委員会議録の確認について

平成24年10月10日に開催した第2回社会教育委員会議録を配布し、本会議で承認のうえ市ホームページへ掲載することを事務局から説明した。